

第4回意見交換会の開催報告

1.日時：令和2年7月27日 18時05分～19時15分

2.場所：名古屋市役所 12A会議室

3.団体名：相生山緑地を考える市民の会、風の子幼稚園

4.市出席者：緑政土木局企画経理課 上杉主査（企画）

道路維持課 姫野主査（安全対策）

道路建設課 蒲野主査（事業調整）

緑地事業課 岩本課長、中村緑地計画係長

5.参加者：8名

6.当日の次第

(1) 開始のあいさつ

(2) 世界の「AIOIYAMA」プロジェクトに関する現状報告

(3) 入り込み交通対策について

(4) 弥富相生山線について

(5) 相生山緑地の基本計画の検討について

(6) 終了のあいさつ

7.主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）

（世界の「AIOIYAMA」プロジェクトに関する現状報告）

○請願採択・不採択の理由は何か。

●議会としては道路建設賛成が多数を占めており、請願第9号が不採択、第12号が採択となった。

○議会が道路建設したい理由は何か。

●都市計画で決定され、これまで整備を行ってきたなか廃止するべきではないという意見。

○市は廃止表明をしているが、行政としては議会の意見をどう考えるのか。

●市長は平成26年に廃止を検討するよう表明し、議会では請願が採択され意思が示されている。今は市長と議会の意見が一致していない中で、検討を行っている状況である。

○名古屋市総合計画について、もう少し詳しく説明してほしい。

●相生山緑地の環境保全と地域の防災性を高めることやユニバーサルデザインを取り入れることにより、相生山緑地の事業を推進していく。そのため当面の目標とし

て、2023年に向けて「相生山緑地の基本計画の策定」を計画目標としている。

- 予算について、詳細な内訳と対策内容を教えてほしい。
- 2月に行われた検討会議の資料として、金額の内訳はホームページに掲載されている。渋滞対策が188,000千円、弥富相生山線の調査検討45,000千円、入り込み対策1,600千円、緑地計画の検討12,000千円。
- 議会で予算が可決された際にどのような質問が出たか、どうして可決されたかポイント等を教えてほしい。
- 議会では意見は出ていない。

(入り込み交通対策について)

- 地元でどのような組織ができているのか。組織を知らない人がいるがどう考えているか。
- 対策についてはホームページに載せているが、なかなか周知できていないため、地元住民には周知できるよう今後広報を行っていきたいと考えている。
- 入り込み対策は何のためにやっているのか。
- もともと通過交通が多いという問題があった。さらに市長表明にも掲載されたため、協議会を設置し対応していくこととなった。
- 今日も車で通過したが、ポールが立っているとどこで待避すればいいかがわからない。逆に邪魔になるように感じる。30km/h規制の方が有効だと感じる。ポールが有効かどうか調べてほしい。
- 邪魔になることでスピード抑制につながっていると考えている。邪魔だと思ってもらうことを目的として行っている対策である。
- 市長は許可証を出すような話をしているが、地元には話しているのか。また今後はどのように考えているのか。
- 地元で話したところ、許可証を持っていないお客様への対応などで意見としてまとまらなかった経緯がある。
- 臨機応変にやればよい。安全対策を抜本的に考えるのであれば、テーマをしっかり持って協議会や庁内会議を拡大的に行い、内容を詰めていくべきだと考える。

(弥富相生山線について)

- 渋滞対策について、車線をどのようにするかなどシミュレーションの資料はないのか。

- 島田交差点では朝にバス専用レーンができるため、直進車線を 1 車線追加する工事を行っている。
- バス停が移動している。
- 今はバス停を移設しているが、工事が終わったら元に戻す。
- 東海通を東に行くと豊明との市境の道路（県道名古屋岡崎線）を整備しているが、いつ開通するのか。刈谷と徳重はいつ繋がるのか。県道ではないのか。
- 名古屋市側は把握しているが、市内ではないので把握していない。分かれば報告する。
- 調査の結果明らかに道路が必要ないとなったら、行政として根拠のある結果として道路を廃止するという判断をするのか。結果が出ても議会が反対しているから廃止できないという対応をとるのか。調査は意味があるのか。
- 今後の方針については、市長を中心とする検討会議の中で決まってくるものと考えている。調査の結果については意見交換会において提示し、市民の方から様々な意見を抽出し、それを検討会議に提示していきたい。
- 道路を廃止する根拠を証明するために調査すると前回話していたが、予算化するにあたっては、どのような基準でシミュレーションをすることで、どのような結果が出るかを議会に説明したのか。また、議会からどのような質問が出たのか。
- 予算化するにあたってシミュレーションは行っていない。市長の廃止の方針を市民の方になかなか理解していただけない状況にあり、わかりやすい表現で調査結果を示していきたいと考えている。
- 市長が平成 26 年に廃止を表明している。渋滞対策のベースになっている調査は平成 28 年に行っているが、今回の調査と何が違うのか。
- 平成 28 年度の調査は交通量、旅行速度、現地の構造など、周囲がどのような交通をしているかの調査を実施した。
- 廃止の根拠となる調査は平成 28 年度の調査ではやっていなかったということか。
- 今回の調査は、前回と同じ交通量調査をやるのではなく、弥富相生山線の有無によりどのような影響があるかを調査し、わかりやすく示すことを考えている。
- 影響とは何をイメージしているのか。
- 道路の役割や価値などを調査する。交通量調査を行うのではなく影響調査を行い、意見を聞いていきたいと考えている。
- データを見せて意見を聞いてどうするのか。どういう目的を持っているか言ってもらわないと意見交換できない。

(相生山緑地の基本計画の検討について)

- 意見交換会についてはコロナ禍において話し合う時間が短くなっているが、結論を急がずにしっかりやってほしい。今年度の環境調査はすでに終わっているということでもいいか。
- ヒメボタルの飛翔調査はピークだった5月下旬の前後3日間で完了している。10月～11月にヒメボタルの幼虫や陸産貝類の調査を行う。
- 相生山緑地の全体を調査するということか。
- 相生山緑地全体123.7haを調査する。民有地も点在しているため、名古屋市有地という場所の制限は若干あるがほぼ全域、約300地点の飛翔調査を実施した。幼虫調査等については箇所数が少なくなるがポイントを絞ってやっていきたい。
- 環境調査以外の調査もそうであるが、全部やらないと結果は提示できないのか。
- 全てがそろった状態でなくても、それぞれが整い次第、意見交換会で提示できるものは提示していきたい。
- 協議体と検討会の違いは何か。検討会の位置づけは相生山緑地の基本計画だけのものなのか。これまでの意見交換会はどうなるのか。そのあたりについてスケジュールも含めて説明していただきたい。
- 協議体も検討会も、市民や行政が同じテーブルにつき緑地の基本計画を策定するという主旨は変わらない。主旨は変わってないが協議体では少し固い感じがあり、市民と一緒に検討していきたいという思いから検討会に変更した。検討会は、相生山緑地の基本計画の策定を目的としており、緑地のあり方や、どのような姿を目指すべきであるかということを検討していきたいと考えている。
- 意見交換会は検討会とは別で今後も継続していく。
- 令和元年度の報告書からずれないように誘導する出来レースの感じがする。報告書に示されていたことが、基本計画になり、基本設計、実施設計に進んでいく気がする。例えば、指定管理者を用いる予定があるのであれば、指定管理者の選定を含めたコンペやプロポーザルなどを実施し色々な意見を集め、その中から一番いいものを採用するなどできないか。
- 昨年の時点では、(緑地の基本計画の)素案をたたき台にして議論していきたいと考えていたが、意見交換のなかでなかなか進んでいかなかった。昨年度の報告書は、緑地の活用や維持管理方法などの事例を収集したもの。平成30年12月に示した(緑地の基本計画の)素案をたたき台にして相生山緑地をどうしたいか、しっかり

と意見を聞き議論できる場として、検討会を立ち上げたいと考えている。

- 検討会というからには様々な意見が見えるようにし、それがどうなるかという手ごたえがほしい。ボランティアについても、それがだめかどうか住んでいる人に聞いてみるのもいいと思う。
- 検討会を立ち上げるにあたって、意見交換会でいただいた意見をしっかり分析し、プログラムを作りこみたいと考えている。また、第三者に司会進行を任せる方向で考えている。
- 検討会は傍聴可能にしていきたい。
- 設置要綱等を策定していくので、傍聴についても検討していきたい。
- 検討会は道路推進派もメンバーか。
- 地元の方にお声がけする。また意見交換会の参加団体には、みなさんに声掛けする予定である。
- 今まで出た意見を整理してとあったが、緑地のあり方をもう一度考え直すということが良いか。
- 素案をたたき台として、緑地のあり方であったり、樹林地管理の目標であったりについて検討する。
- それを整理しながら提示していただければ私たちも意見を出していく。